

令和6年度(2024年度) 熊本県学力・学習状況調査

【今後の取組に向けて】

※令和7年2月27日付け教義第1010号通知の【別紙1】から抜粋した内容となります。また、本HP内の「参考資料」に今回の結果等を踏まえた授業改善等に関する校内研修資料を掲載しています。ご利用ください。

今後の取組（各学校での取組）

引き続き取り組むこと

●教員が授業を中心に行うこと

○児童生徒が学びの主体となる学習活動の設定とその内容の充実

- ・単元の中で、自分で考えたり、取り組んだりする学習活動を設定し、内容の充実を図る。⇒ 重点指標1
- ・単元の中で、自分の考えを工夫して発表する学習活動を設定し、内容の充実を図る。⇒ 重点指標2

○児童生徒が「分かった」と実感できる授業の充実

- ・調査の結果から、課題が見られる問題は、その克服を図る。⇒ 重点指標3
- ・児童生徒の定着状況を確認し、定着のための手立てを確実に行う。⇒ 重点指標3

【重点指標1】:授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【重点指標2】:自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

【重点指標3】:授業の内容はよく分かりますか。(各教科において)

●学校総体で行うこと

○教員が学びの主体となる校内研修等の充実

- ・教員が学びの主体となる校内研修や授業研究会、検証改善サイクルの確立等に向けて、県提供の資料や外部機関等を活用して取組の充実を図る。



本年度中に取り組むこと

○全職員による分析結果の共有

- ・校内研修等で、学力、学習及び生活の状況と分析結果を共有する。等
※県全体の結果は、本HP内の「教科に関する調査の詳細」や「質問紙調査の詳細」等を参照しましょう。

○課題の克服に向けた取組

- ・個人票を基に意欲を高める声掛けを行う。復習用教材を活用して児童生徒一人一人の課題を克服する。
※令和7年2月27日付け教義第1010号【別紙3】「各教科における課題の克服に向けて」や本HP内の「教科に関する調査の詳細」から「継続して課題となった問題」を確認し、各学校の課題とともに確実に定着を図りましょう。



〔取組の検証〕

全学調査実施(R7. 4. 17(木))国、算・数、理

※中理と小中質問調査はオンライン方式で文科省が指定する日に実施

目標:誰一人取り残さない学びの保障と「児童生徒を学びの主体」とする授業力の向上を図る。 ～学力向上検証改善サイクルを確立させましょう～

① Check 2～3月 令和6年度熊本県学力・学習状況調査から「重点指標」と「各学校が設定した指標」「分析結果」について記入します。校内研修等で学力・学習及び生活の状況と分析結果を共有しましょう。

対象	質問項目 (肯定的に回答した割合)	県の結果	本校の結果 (担当学年・学級等の結果)
児童 生徒	【重点指標1】 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	小 74.6% 中 70.1%	()
	【重点指標2】 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	小 66.7% 中 60.1%	()
	【重点指標3】 授業の内容はよく分かりますか。	国語	小 86.0% 中 79.5%
		算数・数学	小 81.0% 中 65.6%
		英語	小 77.0% 中 60.8%

【各学校が設定した指標】

質問項目	結果
	()

【結果分析】

熊本県学力・学習状況調査（R7. 12 実施）

⑧ Do 9～1月 「児童生徒が学びの主体となる学習活動の設定とその内容の充実」や「児童生徒が『分かった』と実感できる授業の充実」、「教員が学びの主体となる校内研修等の充実」等に取り組みましょう。

⑦ Plan 8～9月 9月以降に学校総体で取り組むことを確認しましょう。
☐「熊本の学び」プロジェクト校、道徳教育研究推進校等、公開授業や研究発表会への参加の計画
☐県提供の資料(「全国学力・学習状況調査の結果分析資料」「くまナビ評価問題」等)の活用を計画 等

⑥ Action 8月 課題の克服に向けて、県提供の資料等を活用して、学校総体や個人で取り組むことを決めましょう。

【学校総体で取り組むこと ※いつ・何を・どのように】

【個人で取り組むこと ※いつ・何を・どのように】

② Action 2～3月 課題の克服に向けて、学校総体や個人で取り組むことを決めましょう。
※参考「県学力・学習状況調査活用ステップシート」等

【学校総体で取り組むこと ※いつ・何を・どのように】

【個人で取り組むこと ※いつ・何を・どのように】

③ Plan 3～4月 ①Check、②Action 等を踏まえ、「県提供の資料」「外部機関(指導主事、スーパーティーチャー等)」を校内研修の計画に位置付けて、年度当初の校内研修等で共有しましょう。児童生徒の学習状況を次の学年の担当者や中学校へ引き継ぎましょう。

【校内研修等の計画に関すること】

- ☐「熊本の学び」わくわくサークルや教育センター等が実施する研修等への参加の計画
- ☐スーパーティーチャー、スクールアシスト等の外部機関の活用の計画
- ☐県提供の資料(「校内研修で活用できる資料」「Kyo サポ」等)の校内研修への位置付け 等

【引き継ぎに関すること】

- ☐取組状況の振り返り
- ☐次学年、中学校への引き継ぎ
- ☐新学年で取り組むことの確認 等

全国学力・学習状況調査 (R7. 4 実施)

④ Do 4～7月 「児童生徒が学びの主体となる学習活動の設定とその内容の充実」や「児童生徒が『分かった』と実感できる授業の充実」、「教員が学びの主体となる校内研修等の充実」等に取り組みましょう。

○フォローアップドリル等(5月まで利用可) ○くまナビ評価問題の活用 等

⑤ Check 8月 令和7年度全国学力・学習状況調査から「重点指標」と「各学校が設定した指標」「分析結果」について記入します。校内研修等で学力・学習及び生活の状況などの分析結果を共有しましょう。

対象	質問項目 (肯定的に回答した割合)	県の結果	本校の結果 (担当学年・学級等の結果)
児童 生徒	【重点指標1】 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。		()
	【重点指標2】 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。		()
	【重点指標3】 授業の内容はよく分かりますか。	国語	()
		算数・数学	()
			()

【各学校が設定した指標】

質問項目	結果
	()

【結果分析】